

# 第24回 憲法を考える映画の会

## 人権と正義を民衆の手に

虐殺という国家犯罪の追及に市民は何ができるのか グアテマラの記録

# グラニート

## 独裁者に爪をかける



2016年3月26日(土)  
13時半～16時半  
東京体育館 第1会議室  
渋谷区千駄ヶ谷1-17-1  
千駄ヶ谷駅 2分

中央アメリカの国グアテマラは、1950年代前半の民主化が米国の干渉で阻止されて以来、軍の親米派と反米派や左派の対立が続き、1960年に始まった内戦が96年の和平合意まで36年間も続きました。

親米軍事政権は反体制派のゲリラ戦に対抗するため、ゲリラや左派が潜入していると見られるマヤ系先住民の村を襲撃して焼き払い、住民を大量虐殺しました。

この内戦で推定20万人が殺害、行方不明になりましたが、その多くは1982年に権力を掌握した元将軍エフライン・リオス・モントの1年半の統治下に集中しています。この時期のすさまじい弾圧と虐殺については、内戦終了後も誰も責任を問われることなく政府は事実を否定しつづけました。

ところが、そんなグアテマラで、2013年5月に驚くべき事件が起こりました。グアテマラの裁判所がリオス・モント元将軍に対し、ジェノサイドと人道に対する罪で、80年の刑を宣告したのです。

中南米はもちろん、世界中を見渡しても元国家元首が自国の司法制度の中でジェノサイドの罪で裁かれるなんて初めてのことで、しかも有罪判決が出たのです。

この国では軍や特権的財閥に立つ者はたちまち惨殺されてきたことを考えると、このような社会の変化が起きたことはすごいことです。

そうした変化をもたらしたものは何かを考えさせるのが、映画「グラニート」です。

一般1000円 学生600円

主催：憲法を考える映画の会

〒185-0024 東京都国分寺市泉町3-5-6-303  
TEL: 042-406-0502  
ホームページ: <http://kenpou-eiga.com>  
E-mail: [hanasaki33@me.com](mailto:hanasaki33@me.com)  
Facebook: 憲法を考える映画の会